

令和元年度 学校評価結果(職員自己評価)及び保護者アンケート結果について

1 集計結果

50%以下は灰色

1 対象 : ①本校保護者(家庭数) 168名 ②本校職員 102名			職員自己評価		保護者結果			
			30年度	元年度	30年度	元年度		
2 期間 : ①本校保護者対象 令和元年12月9日(月)～13日(金) ②本校職員対象 令和元年12月9日(月)～13日(金)								
3 調査方法: ①本校保護者 評価項目を抽出したマークシート方式による回答。 ②本校職員 グループウェアのアンケート機能による電子入力による回答。アンケートはいずれも、“できている(4)” “ほぼできている(3)” “あまりできていない(2)” “できていない(1)”の四件法により実施した。			回収数	93	102	122	114	
4 評価基準: “できている(4)”と“ほぼできている(3)”の占める割合が80%以上はA 80%未満60%以上はB 60%未満はC			回収率	100%	100%※	71%	70%	
5 備考 : 職員自己評価の本年度回収率については、期間中に事情により評価できなかった職員数を母数より除いている。								
領域	評価項目	実践目標(及び成果)	評価	評価	A+B割合	評価	評価	A+B割合
学校経営	ア 家庭や地域との連携	1 学校行事やPTA行事に、家庭や地域と連携・協力して取り組む。	A	B	75%	A	A	82%
		2 学校ホームページや学校ブログを活用して、家庭や地域に最新情報を発信する。	B	B	72%	B	C	57%
	イ 知肢併置校としての整備推進	3 知肢併置校としての教育内容や教育環境についての協議や研修を行う。	B	C	54%			
		4 県・市教委、友生支援学校やあじさい学園などの諸学校と連携し課題に取り組む。	C	C	39%			
	ウ 進路指導体制の充実	5 卒業後の自立と社会参加をめざし、関係機関と連携して進路指導を行う。	A	B	69%	B	A	80%
		6 将来像を見据え、教員や保護者の進路意識を高める研修会を行う。	B	C	57%	B	B	60%
	エ 実践的指導力と専門性の向上	7 教育愛と使命感を持ち、特別支援教育の専門性を高める研修を行う。	A	B	71%			
		8 一人一人の目標と手立てを踏まえた指導案を作成し、授業力を向上させる。	A	A	80%			
	オ 危機管理体制の充実	9 障害の重度・重複化、多様化に対応して安全点検を行い、学習環境の改善を図る。	B	B	68%			
		10 危機管理マニュアルを活用し、状況に応じた行動ができるよう避難学習を実施する。	A	B	79%	A	B	79%
カ 個人情報の保護	11 児童生徒の個人情報(名前や写真など)を適切に管理している。	A	A	92%				
<p>・項目1は、職員自己評価がAからBへと下がっているが、保護者アンケートではA評価と高い評価であった。</p> <p>・項目2は、保護者評価がBからCに下がっており、ホームページ等でのより一層の内容に関する情報発信の充実が望まれていると考えられる。</p> <p>・項目3に関しては、学習指導要領の改訂に伴い、これまでは教育課程や指導法についての研修が中心となっていたが、知肢併置校としての研修や協議の充実の必要性を教職員が望んでいることが、自己評価の結果から伺える。</p> <p>・項目4は、毎年C評価であるが、関係機関との連絡調整は、支援部や管理職が窓口となっているため、直接やりとりをする教職員が少ないことから、このような結果になっていると考える。</p> <p>・項目5は、保護者評価が全体では、BからAに評価が上がったが、学部ごとの結果を見ると、小中学部の保護者の評価が低い。高等部の保護者評価は、例年Aである。</p> <p>・項目6は、保護者アンケート、職員自己評価共に低く、特に小中学部保護者の評価がCと低かった。</p> <p>・項目10は、危機管理マニュアルを改訂し、職員研修を実施した結果、課題点や改善点等が見えてきたことから逆に職員自己評価が下がったと考えられる。また、保護者の引取り訓練実施等の課題もあることから、保護者と連携した危機管理体制の更なる充実が望まれている。</p>								
教育課程	一貫教育の推進	12 小・中・高で児童生徒及び指導支援の情報を共有し、連続した指導を行う。	C	C	57%	B	B	71%
	ク 個別の教育支援計画の活用	13 児童生徒の将来像や伸ばしたい点など、一人一人のニーズに基づいて目標を設定し、地域資源を活用するなど適切な支援を実現する。	A	B	75%	A	A	81%
	ケ 個別の指導計画による指導の充実	14 個別の教育支援計画を踏まえて実態に応じた具体的な目標と手立てを定め、適切な指導や評価を行う。	A	A	89%	A	A	89%
	コ 指導方法や指導体制の工夫	15 各教科等における個別の目標に基づき、興味・関心、得意分野を生かすなど指導の手立てを工夫する。	A	A	86%			
		16 個別の目標や指導の手立てを共通理解し、指導者間の役割分担とチームワークで授業の充実を図る。	A	A	80%			
	サ 体験活動	17 教科等の学習と体験活動を関連づけることで意欲を引き出し学習効果を高める。	A	A	83%	A	A	90%
		18 家庭生活や地域生活に結びついた体験活動で生活自立や社会参加への意欲と態度を養う。	B	B	76%	A	B	79%
シ 集団活動	19 豊かな人間関係を育むために、年齢や障害の違いを超えたより活発な集団活動を計画する。	B	B	73%	A	A	82%	
<p>・項目12は、昨年同様に職員自己評価が低く、学部間の連携の充実について具体的な方策を検討していくことが急務であると考えられる。</p> <p>・項目13では、職員自己評価がA→Bと下がっており、地域資源の活用について課題があることが伺える。</p> <p>・項目14～17は、昨年同様に職員、保護者共にA評価である。</p> <p>・項目18に関しては、保護者評価がBになっているが、昨年度80%→79%とほぼ、同様の結果である。</p>								
			職員自己評価		保護者結果			
			30年度	元年度	30年度	元年度		
課題教育	ス 人権教育の推進	20 児童生徒が社会で生き生きと暮らせるよう、命の大切さや思いやりの心、コミュニケーションの力、ルールやマナー等を育成する。	A	A	87%	A	A	86%
	セ 人権意識の向上	21 人権に配慮した指導(言葉遣いなど)やいじめ早期発見のチェックリストを定期的実施する。いじめを許さない学校をテーマとして、人権を意識した研修に取り組む。	A	A	83%			
	ソ 居住地校交流及び学校間交流の推進	22 年間計画を立てて育てたい力を明確にし、児童生徒同士の充実した活動になるようしっかり打ち合わせを行って実施する。	A	A	84%			
	タ 地域との交流	23 土曜なかよし活動(年2回)、神養まつり、交流鑑賞会等、地域や近隣校に参加を呼びかけ、継続的な交流で地域啓発を図る。	A	B	67%	A	A	89%
	チ 食育の推進	24 教育活動全体において食育を推進し、食への関心を高め、家庭と連携して望ましい食習慣の確立を図る。	A	B	71%	A	A	88%
	ツ 校外支援の取組	25 地域の学校や保護者のニーズを把握し、教育相談や講師派遣、就学相談、進路相談等、地域のセンター的機能の充実を図る。	A	B	74%			
26 地域自立支援協議会等の関係機関と連携して講演会や進路セミナーを開催し、地域への理解啓発を推進する。		B	B	63%				
<p>・項目23は、今年度は、感染症の流行で実施が中止となった取り組みが多かったことから、特に職員の評価が下がったと考えられる。</p> <p>・項目24は、小学部、高等部の職員評価はAであったが、中学部がBであった。</p> <p>・項目25は、昨年度A(87%)→B(74%)と下がった。センター的機能としての役割は、支援部を中心として行っていることから、直接的に関わっていない職員の評価が下がったことが要因として考えられる。</p>								

2 学校評価の実施方法と課題 ～PDCAサイクル確立に向けて～ Plan(計画・目標)→Do(実践)→Check(評価)→Action(次年度への改善点と方策)

① 保護者アンケート

- ・ アンケート回収の際、所属学部が分かるように回収袋を用い、学年ごとに回収したことで無所属回答が無くなり、学部毎の集計が正しくできた。
- ・ 昨年度同様、マークシート記入方式を用いたことで、アンケートの処理が迅速にでき、データ処理がしやすかった。

② 自己評価

- ・ 保護者アンケートと同じ期間に実施したことで、自己評価の集約やデータ処理が迅速にできた。また、今年度もグループウェアでの回答方式を用いたので、アンケート結果をデータ化しやすかった。
- ・ 今年度は、職員の自己評価結果が下がっているものも多く、自由記述等で細かい理由なども回答してもらい分析していくことも必要かもしれない。

③ 学校関係者評価

- ・ ホームページは、見る人、見ない人、見られない人もいる。保護者は、ホームページを見るので、学校としてどのようなことをしているか、特色や系統的に授業を行っているという点をアピールしてはどうか。
- ・ 保護者は、高い評価である。教師の評価が下がっているのは、頑張ろうという意思表示だろう。具体的にどのようなことが問題なのか、理由を明らかにしていく。

④ 今後の改善方策

- ・ 教師評価が低かった点については、関連する分掌部長を中心に、理由を明確化し、改善策を次年度の計画に反映させていく。
- ・ ホームページに関しては、スマートフォンを利用して閲覧する保護者等も増加していることが考えられるので、アクセスのしやすさや見やすさ等、情報部を中心に改善策を検討していく。